

プログラム及び参加者紹介

プログラム

10月15日(水)

オープニング・セッション

- 10:30～10:35 開会挨拶
鈴木 陽(防衛研究所副所長)
- 10:45～11:00 趣旨説明
林 吉永(防衛研究所戦史部長)
- 11:00～11:30 基調講演 「海洋国家日本の戦略 福沢諭吉から吉田茂まで」
北岡 伸一(東京大学大学院法学政治学研究科教授)

第1セッション

- 11:30～12:00 発表 「新秩序の模索と国際正義・アジア主義
近衛文麿を中心として」
庄司 潤一郎(防衛研究所戦史部第1戦史研究室長)
- 12:00～12:30 発表 「米国の戦略計画策定(1919～1939年)
無知から臨機応変へ」
フランシス・G・ホフマン(海兵隊戦闘研究所戦略計画担当官)
- 12:30～14:00 昼食・休憩
- 14:00～14:30 発表 「総力戦、モダニズム、日米最終戦争
石原莞爾の戦争観と国家・軍事戦略思想」
石津 朋之(防衛研究所戦史部第1戦史研究室主任研究官)
- 14:30～15:00 発表 「第二次世界大戦における米国の戦略とリーダーシップ
二正面戦略をめぐる問題」
ウィリアムソン・マーレー(オハイオ州立大学名誉教授)
- 15:00～15:20 休憩
- 15:20～15:50 コメント
井上 寿一(学習院大学法学部教授)
- 15:50～16:20 コメントへの回答
- 16:20～17:00 第1セッション 総合討議

10月16日(木)

第2セッション

- 9:30～10:00 発表 「敗戦国の外交戦略 吉田茂の外交とその継承者」
中西 寛(京都大学大学院法学研究科教授)
- 10:00～10:30 発表 「戦略は偶然の産物 米国の太平洋政策(1945～1975年)」
リチャード・H・シンライク
(元陸軍指揮幕僚大学高等軍事研究学校長)
- 10:30～10:50 休憩
- 10:50～11:20 発表 「戦略思想としての『基盤的防衛力構想』」
道下 徳成(防衛研究所第2研究部第3研究室主任研究官)
- 11:20～11:50 発表 「米国の外交政策と戦略 1970年～現在」
マッキュービン・T・オーウェンス(海軍大学校教授)
- 11:50～13:30 昼食・休憩
- 13:30～14:00 コメント
秦 郁彦(元日本大学法学部教授)
- 14:00～14:30 コメントへの回答

総合討議

- 14:30～15:30 総合討議
- 15:30～15:55 議長総括
- 15:55～16:00 閉会挨拶
鈴木 陽(防衛研究所副所長)

参加者紹介

議長

林 吉永

現職：防衛庁防衛研究所戦史部長

略歴：防衛大学校卒業。航空幕僚監部総務課長、北部方面警戒管制団司令、第7航空団司令、航空自衛隊幹部候補生学校長等を歴任。1999年3月、退官。空将補。同年4月から現職。

基調講演者

北岡 伸一

現職：東京大学大学院法学政治学研究科教授

略歴：東京大学卒業、同大学院修了（博士）。法学博士。1976年立教大学法学部講師、同助教授、同教授を経て、1997年4月から現職。1981年から1983年までプリンストン大学国際問題研究所客員研究員。サントリー学芸賞、吉野作造賞等を受賞。

著書：『日本陸軍と大陸政策 1906～1918年』、『自民党 政権党の38年』、『日本の近代 第5巻 政党から軍部へ』ほか。

発表者（発表順）

庄司 潤一郎

現職：防衛庁防衛研究所戦史部第1戦史研究室長

略歴：筑波大学卒業、同大学院修了（修士）。1986年防衛研究所助手、その後、所員、主任研究官を経て、1999年4月から現職。2001年から2003年まで防衛研究所企画室研究調整官を兼務。

著書：『変動期の日本外交と軍事』（共著）、『大正期日本のアメリカ認識』（共著）ほか。

フランシス・G・ホフマン（Francis G. Hoffman）

現職：海兵隊戦闘研究所戦略計画担当官

略歴：ペンシルヴェニア大学卒業、ジョージ・メーソン大学大学院、米海軍大学校にて学位修得。1986年に海兵隊退官。予備役中佐。海兵隊戦闘開発司令部の海兵隊戦略研究グループなど、様々な委員会・研究会において安全保障問題の分析員を歴任。「ハート・ラドマン委員会」を補佐する国防長官直轄の国

家安全保障検討委員など、様々な政府委員会の委員も歴任。

著書：*Decisive Force: The New American Way of War* ほか。

石津 朋之

現職：防衛庁防衛研究所戦史部第1戦史研究室主任研究官

略歴：獨協大学およびロンドン大学教養課程（ICC）卒業、ロンドン大学 SOAS 大学院修了（修士）、同 KCL 大学院修了（修士）。1993 年防衛研究所助手。1999 年オックスフォード大学大学院修了（博士）。2000 年から現職。

著書：『戦争の本質と軍事力の諸相』（編著）、『リデルハート』（編著）、『現代戦略論 戦争は政治の手段か』（共著）ほか。

ウィリアムソン・マーレー（Williamson Murray）

現職：オハイオ州立大学歴史学部名誉教授、防衛分析研究所研究員。

略歴：エール大学卒業、空軍士官として東南アジアに従軍した後、同大学院修了（博士）。歴史学博士。エール大学歴史学部助教授を経て、1977 年から 1995 年までオハイオ州立大学歴史学部教授。その間、ロンドン大学 LSE 客員教授、海兵隊大学校教授、陸軍大学校教授などを歴任。

著書：*Luftwaffe; Military Effectiveness*（共著）；*The Making of Strategy*（共編）；*The Dynamics of Military Revolution, 1300-2050*（共編）ほか。

中西 寛

現職：京都大学大学院法学研究科教授

略歴：京都大学卒業、同大学院法学研究科修了（修士）。1991 年京都大学法学部助教授を経て、2002 年から現職。1988 年から 1990 年までシカゴ大学歴史学部博士課程在籍、1994 年から 1995 年まで文部省在外研究員としてロンドン大学 LSE、オーストラリア国立大学に在籍。

著書：『国際政治とは何か 地球社会における人間と秩序』ほか。

リチャード・H・シンライク（Richard H. Sinnreich）

現職：カーリック・コミュニケーションズ社長、陸軍および国防問題コンサルタント。

略歴：陸軍士官学校卒業、オハイオ州立大学大学院修了（修士）。在欧連合軍最高司令部（SACEUR）特別補佐官、戦略・国際問題研究所（CSIS）研究員、陸軍指揮幕僚大学高等軍事研究学校長などを歴任した後、1990 年に陸軍を退

官し、現職。

著書：“Army Manual FM100-5, *Operations*” (1986 edition) (共著)ほか。

道下 徳成

現職：防衛庁防衛研究所第2研究部第3研究室主任研究官

略歴：筑波大学卒業、ジョンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院（SAIS）（博士）。国際関係論博士。1990年防衛研究所助手、2001年から現職。2000年韓国慶南大学校極東問題研究所客員研究員。

著書：『大量破壊兵器不拡散の国際政治学』（共著）、『現代戦略論 戦争は政治の手段か』（共著）ほか。

マックユービン・T・オーウェンス（Mackubin T. Owens）

現職：海軍大学校教授

略歴：カリフォルニア大学サンタバーバラ校卒業、オクラホマ大学大学院修了（修士）、ダラス大学大学院修了（博士）。ロードアイランド大学、ダラス大学、カトリック大学、海兵隊高等戦闘学校において教官を歴任。現在、海軍大学校にて戦略と戦力構築の講座を担当。海兵隊予備役大佐（退役）。

著書：*Strategy and Force Planning*（共著）ほか。

コメンテーター（登壇順）

井上 寿一

現職：学習院大学法学部教授

略歴：一橋大学大学院法学研究科修了（博士）。法学博士。同大学法学部助手などを経て現職。

著書：『危機のなかの協調外交』、『日本外交史講義』ほか。

秦 郁彦

略歴：東京大学卒業。ハーバード大学、コロンビア大学留学の後、大蔵省財政史室長、プリンストン大学客員教授を歴任。拓殖大学教授、千葉大学教授を経て、1997年から2002年まで日本大学法学部教授。法学博士。

著書：『軍ファシズム運動史』、『日中戦争史』、『盧溝橋事件の研究』ほか。